

第2回 燕市都市計画マスタープラン策定委員会 会議録

1. 日 時

令和4年1月11日（火）10:00～11:30

2. 場 所

燕市役所 1階 つばめホール

3. 出席者（敬称略）

【委員】 9名

長岡技術科学大学 准教授	松川 寿也
新潟工科大学 教授	樋口 秀
燕市自治会協議会 会長	田邊 一郎
燕商工会議所 副会頭	藤田 進
吉田商工会 理事	小林 理恵子
分水商工会 女性部副部長	本田 裕美
越後中央農業協同組合 経営管理委員	酒井 喜代太
一般社団法人燕市観光協会 会長	山崎 悦次
公益社団法人新潟県宅地建物取引業協会 西蒲・燕支部 副支部長	横山 正憲

【オブザーバー】 2名

新潟県 三条地域振興局 地域整備部長	鈴木 則昭
新潟県 三条地域振興局 農業振興部長	山田 一成

【事務局】 6名

4. 次 第

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議事項
 - (1) 前回のふりかえり
 - (2) まちづくりの理念と将来像
 - (3) まちづくりの目標と主要課題
4. その他
5. 閉会

5. 議事概要

1. 開会

事務局より開会のあいさつ

2. あいさつ

(松川委員長)

- ・今回は第2回の会議です。都市計画マスタープラン策定委員会の開催にあたりまして一言ご挨拶させていただきます。本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。
- ・2回目の策定委員会になりますので、本日の内容は前回のふりかえりということで11月16日に開催した庁内の検討委員会と12月15日に開催した策定委員会の内容について事務局から報告をしていただきます。その後、20年後のまちづくりの将来像の案と燕市の目指す都市構造のイメージとまちづくりの目標、将来像の実現のための主要課題を目標ごとに整理した案について事務局から説明していただきます。皆様からはぜひ活発なご意見をいただきたいと思います。様々な視点からのご意見やご提案を頂戴し有意義な会となるようご協力賜りたいと思います。
- ・簡単ではありますが、開催にあたりご挨拶させていただきました。よろしくお願いいたします。

3. 協議事項

(1) 前回のふりかえり

事務局より協議事項(1)を説明。

- ・意見なし

(2) まちづくりの理念と将来像

事務局より協議事項(2)を説明。

(松川委員長)

- ・まちづくりの理念と将来像につきましてご意見ある方いらっしゃいますか。
- ・ご説明いただいた理念と将来像はまさに都市計画マスタープランのキャッチフレーズにあたる部分です。3つの案がありますが、今回決めるわけではなくご意見を頂戴したうえで考慮するため、本日は深く考えずご意見頂戴したいと思います。

(樋口委員)

- ・私は都市計画の特に中心市街地の活性化や住宅の問題を専門としており、燕市の皆様とは10年来色々な分野でお手伝いをしております。
- ・6ページのまちづくりの理念と将来像で個人的には案2『人と自然と産業が共生する夢のある都市(まち)』が良いと思うのですが、“夢“というのが都市マスの中にしっかり入っているのが気になります。7ページにある“これからのまちづくりの方向性(案)”

を見て若い方や主婦の方など皆さんが「夢があるな」と思えるのであれば良いが、入っていないなら入れる方向性があると良いと思いました。燕市の良いところは光り輝いているところで、洋食器やステンレスなどのキラキラした光は県内でも断トツだと思います。

- ・前回の策定委員会でスマートシュリンクではないのではないか、と発言させていただきました。これから人口が減っていくことは仕方がないことだが、そういった縮む印象ではなく、これから生まれてくる子供たちが光り輝いてくれるような、例えば吟醸酒はどれだけ米を磨くかで価値が変わるように、磨く・輝くという言葉が燕市との親和性が高いと思います。磨いていく、見直していく、高めていく、強めていくといった、燕の良さを外に出していく持続可能な理念にしていきたいです。

(小林委員)

- ・案2の”輝く”は素敵な言葉だと思います。その後の”持続可能な”についてはSDGsが盛んに言われていて持続可能が昨今のキーワードになっているため、今つくる計画なら取り入れるのもわかるが、燕市に住んでいる人間にとっては当たり前なので、わざわざ言わなくても良いのかなと感じました。しかし”自然と産業が共生する”という文言はとても合っていると思います。その後の”夢”というキーワードに関しては悩ましいです。
- ・地元民では当たり前だと思っていることが外から見ると魅力的だと言っていたので初めてわかるので、先程のご意見は大変ありがたいと思います。

(藤田委員)

- ・樋口先生もおっしゃられていましたが、産業界としてはぜひ”磨く”や”光り輝く”など燕市らしい言葉を入れることで産業観光を発信する意味でもプラスになるのではないかと思います。SDGs・持続可能といったキーワードもわかりやすいが、ぜひ燕市らしい一言を入れると良いと思います。

(山崎委員)

- ・6ページの“自然”“産業”についてとても良いテーマで賛成です。燕は本当にうまくやっていると思います。
- ・産業については中小企業が集積して全国でも褒められているので、我々としてももっと力を入れてやっていきたいと思っています。もっとやれと言う激励のご意見もいただいております。資料についてはよくできていて、100%ではないですが私としては文句のつけようがないと思います。

(松川委員長)

- ・都市マスでは都市の特徴をキャッチフレーズの中に入れていく都市が多くあります。教育を売りにしている都市では”まちを育てる”、音楽を文化にしている都市では”みんなで奏でる”などを使っているので燕市らしさがキャッチフレーズの中に盛り込まれると良いと思います。
- ・案1は現計画を引き継いだものですが、サブタイトルのように横文字が良いのか個人的には疑問に思います。個人的に横文字を使うのはあまり好きではないですが、うちの大学で

もイノベーションやベンチャーなどを使いますが。横文字を使わなくてもコンパクトシティと持続可能なまちづくりと同様であるし、キャッチフレーズの中にアスタリスクをつけるというのなかなか伝わりづらいと思いますので、その辺りも含めて理念将来像につきましてもご意見、ご提案を含めて事務局の方で再度ご検討いただきたいと思います。

- ・あと、まちづくりの理念と将来像の中のまちづくりの目標と将来都市構造について引き続きご意見いただきたいと思います。将来都市構造につきましても現計画と見直し案があるので見比べていただきながらご意見頂戴したいと思います。
- ・先ほど事務局の方からも説明がありましたが、現計画では産業拠点があつたのに新計画案を見ると産業拠点がなくなっていて、今回産業拠点をしっかりしたいという思いがあると伺っているのに産業拠がないのは違和感があるため、先ほど事務局の説明の中であつたとおり意見させていただきました。そういった疑問点も含めて頂戴できればと思っています。

(樋口委員)

- ・松川先生のお話にあつたとおり、燕市は産業が強いと意味で言うと拠点がどんと入っていた方が良いのではないかと思いつつ、それをどう描いたら良いのかなと、もやもやしながらお話をしております。
- ・先ほどの事務局のご説明では決して拠点のところだけではなくゾーンのところもなりうるということだったので中央だけでなくもよいのかとも思うが、とはいえ産業をこれからも大事にしていくという意味では拠点があつた方がよいという思いに変わりはありません。
- ・都市マスはこれから 20 年先のことを考えていくという意味で見ますと、医療拠点が労災病院から県央基幹病院に置き換わるというのは分かりますが、今後 20 年で市民の皆さんの拠点になりうる所、磨いていく場所がどこなのかというのがもう少しわかっても良い気がします。これだと 20 年後もあまり変わらない風に見えてしまうと思います。唯一違うのは吉田バイパスが点線に変わっていて力を入れているように見える。ただし、ここに関連するのが燕市役所周辺のみなので、ここももやもやします。1 つ違うのは、地域連携軸の市役所周辺が現計画と比べると線が強くなったようにも見えますので、この軸を活かしていくように見えなくもない。しかしこの軸がどのように活かされるのかをもう少し表現できると良いと思います。

(事務局)

- ・今後 20 年見据えた中でどのあたりを磨いていくのかという意見に関して、今回案の中で示させていただいたものは、新たにピンク色の賑わい交流拠点の書きぶりを修正させていただいていますし、産業ゾーンについても今後 20 年を見越した中で検討を進めていきたいと考えています。
- ・先ほどお話にあつた国道 116 号吉田バイパス沿線の土地利用の関係や、国道 289 号国道燕北バイパス事業が一部開通した沿線土地利用を含めて検討していく必要があると考えております。

(松川委員長)

- ・磨くというのは産業だけでなく市全体の生活スタイルも含めての意味だと思うので、その辺りも考えながら将来都市構造を考えていただきたいと思います。

(3)まちづくりの目標と主要課題

事務局より協議事項(3)を説明。

(松川委員長)

- ・(3)まちづくりの目標と主要課題につきまして、また(1)(2)も含めた全体を通して皆様からの意見を頂戴したいと思います。いかがでしょうか。
- ・まだご発言されていない委員の皆様や、オブザーバーの方からもご意見頂戴したいと思います。

(鈴木委員)

- ・全体を通しての話をさせていただきます。まず、燕市は交通結節線として高速道路の三条燕インターチェンジ、新幹線では燕三条駅、こういったものを持っているので、この優位性を都市マスで活かしていただきたいと思います。
- ・あと、交流という意味で結節点がある中でインバウンドというか交流人口を増やすため、目を世界に向けるべきだと思っています。そういった中で田園都市の中でできるグリーンツーリズムや、大河津分通水 100 周年もありますのでインフラツーリズム、産業ツーリズムなどで交流人口が増していくのではないのかと思っています。最初から人流の増加を見越したインフラよりは、いかに人流を増やすかというところに目を向けていただきたいと思います。人が行き交うことによってこのまちが光り輝いていくのではないかと思います。今言いました結節点を十分に活かしていった方が良いのではないかと思います。

(松川委員長)

- ・おっしゃる通り人が行き交うのは大事なことだと思います。世界から一目を置かれる産業の町ですので、ぜひそういったところから情報発信や交流人口も含めて、それがマスタープランでどこまで書けるかにもよりますが、できる限り方針として書くと良いと思います。

(酒井委員)

- ・農業組合代表として農業に関連することを意見させていただきます。マスタープランそのものに関しては良いと思います。現況で後継者不足や担い手について書かれていますが、これは将来像実現のための主要課題でどのようにするのか色々書いてあると思うのですが、なかなか先が見えないところが実感としてあります。実際に今現在の農業従事者は 5 年後 10 年後になると結構深刻なほど担い手・後継者がいない。これは燕市だけの問題でなく日本全体の人口減少とつながるところだと思います。農業だけでなく産業界工業界も後継者不足もあると思いますが深刻に受け止めています。色々研修会をやっていますが地道にやっていくしかないといった感想を述べさせていただきます。

(山崎委員)

- ・産業界としてもものづくりはもちろん重要ですが、観光業界として、私は国際交流協会の会長もしており、あまり日本に居ませんが、いま燕市の観光はコロナの影響を大きく受けています。JR東日本のクルーズトレイン四季島では、上野から出発して仙台、日本海のものづくりを見ていただいて、今まで多くのお客さんに来ていただいていたいました。人間国宝の玉川堂の鎚起銅器を見てもらったりしました。いま海外から来られる方はゼロですが、台湾の方々が来ると100万、200万と買って行かれます。JR九州のクルーズトレインのななつ星では燕市の洋食器を使っていただいて、富裕層や高齢者の方が陶器やお皿を購入されてお金を落としてくれる、といった取り組みもコロナで止まってしまいました。
- ・燕市は工場祭典もありますし、ショッピングなど素晴らしい産業観光の資源を持っています。観光ルートとして、商工会議所も観光協会も力を入れています。産業史料館では子どもたちがものづくり体験を行っていますが、もっと広げていこうと力を入れています。
- ・姉妹都市のアメリカの子ども達も鎚起銅器の体験をして喜んでいただいています。国内やアジア等海外まで燕のものづくりを広げるのが観光協会としての使命ではないかと思っています。燕市と三条市もタッグを組んで取り組んでいます。新潟県の農業のなかでも特に米は魅力的ですので、農業を含めた産業観光の国際化を進めていきたいと思っています。

(本田委員)

- ・産業を押ししていくのは燕市であれば間違いないと思います。
- ・分水地区で言うと国上山、可動堰、洗堰、桜並木と小さいながらも観光にできる場所がありまして、国上の道の駅はこれから拡張されていく予定です。女性、主婦目線で見ると道の駅は観光として出かける1番のポイントとなる場所ではないかと思っています。道の駅に関してはただ規模を大きくするだけでなく燕らしさをアピールする場所として皆さんに広めていけるような場所になってほしいと思います。例えば地場のおいしいもの、産業を前面に出してみんなが集まれる良い場所になれるはずなのでそういうところに力を入れてほしいです。
- ・また、おいらん道中は小さいながらも全国的に知られている行事だと思いますのでそこも燕市の1つとして前面に出すようにしてほしいです。周辺部の自然環境の方にも新幹線の駅から人が回れるような骨組みも考えていただきたいと思います。

(松川委員長)

- ・道の駅ということで、こちらは文化交流拠点と位置付けられており拠点としての機能を担うどれも重要な資源だと思います。道の駅からの情報発信も交流人口の拡大につながると思うのでぜひそういったこともできたら良いなと思います。

(小林委員)

- ・都市計画審議会でも出ている話ではありますが、燕三条駅から土手をぐるっと回ると小池の方から簡単に分水まで行けるので、こういったルートやインフラ関係の内容がこちらに入ってくると国上の自然などを強く打ち出せるような気がします。土手の道はとても便利

なので観光に来た方にも知っていただければ燕市を周りやすい気がします。

- ・ふるさと納税の飛燕舞が人気で納税額のかなりを占めていると聞いています。そういった農業に関しても後継者不足が問題とされていますが、少しずつ小規模な農業に興味を持って始めている若者も出てきているので、その辺りも課題として入れても良いのかと思います。

(藤田委員)

- ・お隣の三条の話ですが、ご存知のとおり八十里越が開通することで今後盛り上がると思います。八十里越が開通する頃に合わせて分水地区の観光を整備して、三条コースと燕コースを2通りつくって、良いライバルとして競い合うと良いと思います。
- ・国上は大河津分通水 100 周年もあって、市長のご挨拶でもがんばるとおっしゃっていました。産業界ではお客さんが来てお泊りいただく際に最高の接待が弥彦、岩室になっています。燕市にはビジネスホテルしかないので、国上に今風な宿泊施設があって、おいしい料理を提供できると良いと思います。燕市は地産地消で米も野菜もおいしい食材が揃っているので国上にレストランを作ってもらおうとか。三条でもレストランが観光コースに入っています。食と泊まる場所が無いとお客さんが来ないと思うので、せつかく燕三条駅や三条燕インターチェンジがあるので、泊まる場所は弥彦と連携しているので良いかもしれないですが、食事が出来る場所を誘致できるともっとお客さんが来ていただけると思います。

(松川委員長)

- ・食については食器を作っているのも関連してくると思います。大学の研究室のメンバーで長岡の歓楽街に飲みに行く代わりに、最近は研究室で魚を捌いたりするのに燕の包丁を使っています。食との結びつきは非常に大事だと思います。
- ・これまでのご意見について事務局から何かありますでしょうか。

(事務局)

- ・貴重なご意見をいただきありがとうございます。
- ・全体の話で人流を増やすというご意見がありました。そのためにはインターチェンジや新幹線等をしっかり活かしていこうと思います。
- ・インバウンドに関して、来年は大河津分水が 100 周年を迎え観光資源として東洋一の大工事と言われた大河津分水路をインフラツーリズムに活かしていくということで、大河津分水の 100 周年に向けて市の方も取り組みを進めています。まさにこの資源を活かさないと手は無いのではないかと考えています。
- ・産業に関するツーリズムについてもご意見いただきました。インバウンドはコロナで少し大人しくなっていますが、全国的にはこの 10 年で 2 倍 3 倍増にえているということで活かさない手は無いと思います。JR の四季島を例にお話しいただきましたが、オープンファクトリーも商工会で実施いただいているので、そういったものをしっかり活かして都市マスの方にも位置付けて行けたらと思っております。
- ・担い手不足に関して非常に深刻な問題だということですが、農政課等としっかり連携した

いと思います。全体としては後継者不足の一方、意欲ある若者の存在もありますので、そういうところも把握してまとめていきたいと思います。

- ・国上山の道の駅の指定管理者が変わり、新たな指定管理者と市の方でも意見交換を行っています。色々な意見を出していただきまして、燕の食材を利用した料理の提供や食器の活用をするなど燕らしさを存分に出す整備を考えていきますので、そういったものも都市マスの中で位置づけて取り組んで行きたいと思っています。
- ・他にも色々な意見をいただきましたが、持ち帰りまして、庁内の検討委員会で検討していきたいと思っています。

(松川委員長)

- ・時間も少なくなってきましたので、いかがでしょうか。今後も会議がありますので、その中でご発言いただきたいと思います。
- ・本日の委員会はこれにて終了とさせていただきます。進行を事務局にお返しします。

4. その他

(事務局)

- ・次回の第3回策定委員会の日程は2月16日水曜日午後3時から会場は吉田公民館を予定しております。詳細が決まりましたらご案内差し上げます。よろしくをお願いします。

5. 閉会

(事務局)

- ・以上で第2回燕市都市計画マスタープラン策定委員会を終了させていただきます。長時間に渡りありがとうございました。

以 上